



●明治14年『都の魁』に描かれた芳村石材店の店頭風景

# 磯 (株)芳村石材店

京都市上京区  
創業11享保年間

## ■協力 京都府石材業協同組合

今年の巻頭グラビアは「石屋・原風景」をテーマとして、各地の石材店の歴史、業界の歩みを当時の写真によって振り返ります。  
第一回目は京都の老舗、享保年間創業の磯(株)芳村石材店(山田俊行社長)です。また京都府石材業協同組合にもご協力いただきました。

※小誌では「石屋・原風景」に写真提供等でご協力いただける石材店の皆さんからのご連絡をお待ちしております。詳細は口絵10ページをご参照ください。

■(株)芳村石材店の創業は約二八〇年前の享保年間。現在は宮内庁の御用達店でもあり、まさに京都の歴史とともに歩んできた老舗中の老舗店です。

屋号は「磯」(いしも)で、これは代々受け継がれる「茂右衛門」の名「茂」と「石」の字をあわせ

た同社ならではの造語。現在は芳村誠二会長が、六代目茂右衛門(もえもん)を継いでいます。市内中心を流れる堀川沿いになつてお店を訪ねました。

■「も」とも京都の古い石屋さんは、白川石が採れていた北白川(左京区)周辺に集まっていました。うちの起源もそう聞いていますが、禁門の変(一八六四年)のときにはいまの場所にはいたようです」

そう話すのは、六代目茂右衛門さんです。現在八〇歳ですが、背筋を正してかくしゃくとお話されます。社名を染め抜いた紺色の半被がお似合いで、時おり京ことばをはさみながら、わかりやすく同社の歴史を紐といて話してくれました。



●明治時代に巨石を運搬する芳村石材店の職人たち。綱に引かれた牛が真ん中で首を振っているのがわかる。同社店頭での写真

## 明治年代

巨石を搬入する店頭風景